

厚生労働大臣政務官

栗原 渉



# 福岡県が国を動かす 国としてワンヘルスの取組を推進 人が自然の中で生かされている

## PROFILE

衆議院議員(福岡第5区選出)  
元福岡県議会議員  
出身:朝倉市(旧甘木市)  
趣味:アクアリウム(水草水槽)

令和8年2月20日の国会における施政方針演説の中で、高市早苗内閣総理大臣が、「ワンヘルスの取組」を、国として取り組むべき課題として述べられました。

また、厚生労働省及び農林水産省の令和8年度予算に、ワンヘルス・アプローチに基づく人獣共通感染症対策等が盛り込まれました。そこで、ワンヘルスを取り巻く国の動きなどについて、栗原渉厚生労働大臣政務官にお聞きしました。

### 施政方針演説の中で、高市総理大臣が、「ワンヘルスの取組」を、国として取り組むべき課題として述べられましたが

ワンヘルスの取り組みは、日本をはじめ広く認識をされてきており、国としてもその重要性というのは、近年歴代の総理大臣も国として取り組むべき課題として認識しています。これは、日本獣医師会それから日本医師会をはじめ、皆様方がこれまで地道に取り組みを進めてこられた結果の現れのひとつなんだと思います。

### 厚生労働省としての新たな動きはありますか

感染症対策におけるワンヘルス・アプローチを司る組織として、令和8年4月に感染症対策課の中に、14名体制の「ワンヘルス対策推進室」を新たに設置しました。

### 「ワンヘルス対策推進室」の具体的な業務内容を教えてください

大きく分けて2つあります。一つは人獣共通感染症対策、もう一つは薬剤耐性(AMR)対策です。

これらの対策は、いずれも、ワンヘルスの概念に基づいた対策が求められます。

また、医師会・獣医師会と共に「ワンヘルス連携シンポジウム」を毎年開催するなど、ワンヘルスの普及啓発に努めます。

### 人獣共通感染症対策について詳しく教えてください

近年、米国での乳牛由来の鳥インフルエンザA(H5N1)のヒトでの集団感染や、気候変動を背景とした感染症媒介蚊の活動の変化など、感染症の状況は変化しています。

国内においては、ダニ媒介感染症である重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の感染地域が拡大していることから、国立健康危機管理研究機構と共に、新たに構築したシステムを用いて、発生状況に関する情報収集を行っていきます。

### 薬剤耐性対策について詳しく教えてください

薬の不要な場面での使用や不適切な服用、動物や農業分野での抗菌薬の過剰使用などにより、抗菌薬や抗ウイルス薬などの抗微生物薬が効きにくい性質(薬剤耐性)を持った細菌やウイルスが発生しています。これらの新たな発生を防止しながら、抗微生物薬の持続的な研究開発を促進するため、販売開始後の抗微生物薬に対して一定額の収入を支援する事業を実施しています。

### 栗原政務官が考えるワンヘルスとは

ワンヘルスが本当に推進して広がっていくために一番大事なのは、「人が自然の中で生かされているんだ」というところを本当にわかるかどうかだと思います。

新型コロナウイルス感染症対策もそうでしたし、人獣共通感染症対策や薬剤耐性対策もそうですが、もちろん人類として戦っていかなければいけないけれども、どこかにやっぱり「共生」ということは忘れてはいけないと思います。そうしないと、自然まで人間がコントロールできるという方向に行ってしまうからです。野生動物由来の感染症は、今までのよう



施政方針演説の様子  
(出典:首相官邸HP)

に、物理的にも環境的にもちゃんとすみ分けができていれば、問題なかったわけですから、「共生」というのを忘れてはいけません。

人の社会も一緒ですけど、無用な或いは全く何の役割もない存在っていうのではないと思っています。自然界はまさにそうで、菌やウイルスだって、全く何の役割も、或いは意味がなかったら淘汰されていくでしょうから。現在あるということは役割があるはずなんです。だけれども、その調和がずれてきているということがあるとするならば、それはやっぱり修正していかないといけない。人としてできることは何なのか。そのひとつがワンヘルスの推進だということになるんだろうと思っています。

人の力の小ささっていうのは、私たち、特に私は地元福岡県の災害で経験しました。人が予見できるものっていうのはわずかだと思います。「人が自然の中で生かされているんだ」と。人間のことだけじゃなくて、動物も自然にあるものすべて全体を俯瞰して考えていくということ、それこそ私はワンヘルスだと思います。

### 今後のワンヘルスの展開について教えてください

先ほど申し上げました、「人が自然の中で生かされているんだ」という考え、それをもって人獣共通感染症、人と動物の健康を考えるとところからスタートするアプローチは大事なことです。国がもちろん責任を持ってさらに進めていきます。

厚生労働省としては、人の健康ということが所管ではありますが、それだけにとどまらず、ワンヘルスの考えをさらに押し進めて、特に国民の健康的な暮らし、それから社会がつかれるように、ワンヘルス対策推進室の取り組みの中で、地方自治体との連携というの、これからさらに強化していくべきだと思っています。

また、精神的・身体的・社会的にも健康な状態をつくっていくという「ウェル・ビーイング」という概念があります。この「ウェル・ビーイング」と「ワンヘルス」を一緒に進めていかなければいけないと思っています。

### 福岡県議会へ一言

ワンヘルスという今の全国的な運動の出発点は、福岡県議会だと思っています。特に、提唱者の藏内勇夫福岡県議会議員は、今年4月に世界獣医師会の会長に就任されましたので、さらに日本としての取り組みも、今まで以上に加速していかなければならないと考えています。

今回の厚生労働省におけるワンヘルス対策推進室の設置、またその業務の推進が、その一助となるように、頑張っていきたいと思っています。